

家族の健康支援に力

あまの創健、被扶養者向け健診展開



全国の特定エリアを巡回する健診バス



健診受付の様子

健康診断など健康管理サービスを手掛ける、あまの創健（本社名古屋市中区泉、天野源之社長、電話052・931・0101）は、家族の健康づくりに支援に力を入れている。企業の健康保険組合などに所属する被保険者の妻（被扶養者）が受けることができる健康診断や保健指導を展開。全国35都道府県に健診バスを走らせ、2017年は年7万5千人の被扶養者が受診した。受診率を上げるためのサービスに磨きをかけるなど工夫を凝らしている。

（梶田宏行）

連続受診率アップが課題

健康保険組合に所属する被保険者が年1回の健診を受診する一方で、被扶養者である妻は1回も受診しない人が多い。あまの創健は、「家庭の健康なくして職場の健康なし」の考えの下、妻を対象にした健診・保健指導を2000年に開始した。

また受診率向上策を展開。本年度は、2年連続の非受診者に対して個別に案内を送付する取り組みを実施。健診を受診すれば付与されるポイント制度を導入しており、健康用品の購入や次回健診費用に充てることのできるなどサービス拡充を図り、受診者の困り込みに力を入れている。

被扶養者向け健診・保健指導を導入している健康保険組合数は全国112組。健診バスが全国35都道府県を巡回し、自宅近くで受診することができる。健診担当者は女性スタッフ

フ（一部の医師は除く）をそろえ、通常の健診項目に加え乳がんなど婦人科の項目も用意しており、女性が受診しやすい環境を整えている。

被扶養者向け健診・保健指導導入の健康組合数の拡大に比例して、健診受診者は年7万5千人（17年）、保健指導が年7千人（同）へそれぞれ拡大した。

今後の課題は、連続受診率のアップだ。1度受診しても、毎年連続して受診する人の割合は低下傾向にあるという。このため、さまざま